時事新報特派員

天皇陛下は本月十三日を以て大本營を廣島に進めさせ給へり今後同地は戰報の中心點たるべきを以て御發輦の前夜本社は

特派員　足立荘氏

を同地に派遣したり又過般來朝鮮には京城に石川信氏あり北進の我軍には間利子八五郎、杉幾太郎、高見龜の三氏隨行し戰鬪の實況を報道するに於て遺憾なかるべしと雖も本社は尙ほ之を以て滿足する能はず更に

戰況畫報隊

を組織派遣したり畫報隊は三人より成立ち淺井忠、安西直藏、淺井魁一の三氏にして淺井忠氏は本社十二億用附錄の初筆を染めたる有名の畫家、安西氏も近來畫學に志して深く此道を極め且つ寫眞の術にも通ず淺井魁一氏は寫眞の技に長じ專ら實況の撮影を擔任す斯る人々より組織したる本社の戰況畫報隊は數日前既に渡韓の途に上りたれば新報の戰況報道は文章と繪畫と相待つて大に讀者を滿足せしむべきことを期す

韓地に於ける本社の部署斯の如く之に加ふるに馬關には山崎知遠氏報道の一集點に在りて內外の要報を蒐集す日淸交戰の事に關しては本社の報道、必ず他人を驚かすものあるを信ず

以上所論の如くなれば本社特派員の所在地と其擔任事務を列記すれば左の如し

大本營所在地廣島　足立荘
馬關　山崎知遠
朝鮮京城　石川信
北進軍隨行　高見龜
北進軍隨行　間利子八五郎
北進軍隨行　杉幾太郎

戰況畫報隊
畫報擔任　淺井忠
畫報擔任　安西直藏
寫眞擔任　淺井魁一

時事新報

海軍大勝利

昨日の號外を以て報道したる如く去る十七日海洋嶋附近に於ける海戰の結果は我海軍の大勝利に歸して其勝利の凄じかりしは世界古今の海戰歷史にも多く見ざる所なり抑も日淸兩國の兵力を比較して陸軍は其整否利鈍固より同日の談に非ず平壤の大捷の如き豫め期したる所にして敢て驚くに足らざれども海軍に至りては艦數と云ひ噸數と云ひ實際敵に及ばずして我に賴む所は艦隊以下の熟練と勇氣とのみ其熟練と勇氣とを以てすれば彼に如何なる優勢の海軍力あるも決して恐るゝに足らずとは云ふものゝ海戰は自から陸戰に異なり其勝敗は時の運に由るもの多くして如何なる機會に如何なる奇變を見るやも知る可らず誠に掛念に堪へざる次第にして今日に至るまでは誰れ一人として口外したるものなけれども心の底の又その底を探るときは海戰の勝敗に關して銘々竊に心を勞したるは萬人一樣にして其心勞は實に尋常ならざりしに今度の勝利は果して如何なる吉報ぞや幾旬以來胸を鎖したる苦勞の雲霧も一朝にして忽ち消散したるのみか愉快なれ愉快壯快その歡は筆紙に盡す可らず戰場よりの報道に據りて戰爭の模樣を見るに敵艦は定遠鎭遠以下何れも北洋艦隊中屈指の堅艦にして殆んど彼の精鋭を萃めたる其反對に我艦隊は彼に比すれば劣等のものにして其勢力より云へば敵の半にも及ばざる筈は其上に彼の乘組員中には外國の士官等も少なからざるよしなりしに其結果彼が如くにして彼の四隻を沈沒せしめ三隻を燒き其他の敵艦にも悉く非常の毀傷を與へながら味方の損害は赤城艦以下三隻に於て破損も甚だしからずと云ふ實に異常絕倫の手際にして果して我海軍々人の熟練と勇氣とを證するに足れり敵艦七隻の沈沒燒失は實に彼の北洋艦隊の勢力を挫きたるものにして北洋艦隊の勢力を挫きたるは取りも直さず支那海軍の全力を挫きたるものなり今や渤海灣の權力は全く我手中に歸して天津北京既に指呼の間に在り我軍一擧、正面より進んで最後の目的を達するも當さに遠きに非ざる可し而して其進軍の道を開きたるものは海軍の力にして我輩は國家の爲めに我海軍々人に向て偏に其功勞を謝するものなり外國人の如きは今度の戰爭を如何に見る可きや彼國の新聞紙などは日淸の海軍を比較して淸優日劣の評論を爲すものも少なからざりしかども實際の結果を見ては日本海軍の伎倆は文明の先進國に比して毫も讓る所なく支那の如きは到底その敵に非ざるを悟りたるならん又新式の軍艦機械を用ひて大に海上の戰を戰ひたるは今回の戰爭を其始めなれば此一戰に種々の實驗を經て新工風を得たるものも少なからずして或は之が爲めに今後世界の海軍に一大變化を見るに至るやも知る可らず是亦我日本海軍の偉功として吾々の竊に誇る所のものなり

雜報

○赤城艦長

海洋嶋海の大海戰に當り僅に六百噸許りの砲艦を以て拔群の働きをなし絕大の名譽を荷ふて戰死したる赤城艦長を誰とかなす

海軍少佐　坂元八郎太氏

其人なり氏は鹿兒嶋縣人にして海軍兵學校を卒業し後永く英國に留學して先頃まで吉野艦の副長たりしが赤城艦長に任ぜられて今や此戰勵を奏せり行年三十七八歲前途有爲の材惜むに餘りありと雖も氏の大榮譽は永く海戰史と共に汗靑を照す可し

○伊東司令長官

未曾有の大海戰に未曾有の大勝利を得たる我聯合艦隊の司令長官伊東海軍中將は舊薩摩藩士にして貴族院議員伊東祐麿氏の實弟なり文久年間英艦來りて薩海を砲擊するや深く海軍の必要を認め奮然志を立てゝ藩の英學校なる開成所に入り後時事に感ずる所ありて藩を脫し江戶に來り四方の有志に交を結びて紅葉山なる幕府の金庫を襲ひしことあり是れより幕府の物色を避けて米國に遊學せしが維新の際歸朝し函館の海戰以來海軍に從事して今日の地位に至れり平生職務に勉强にして其司令長官の職にあるや時々深夜に突然艦隊を點呼し各艦を巡視するなど若手の將校も其熱心なるに感服すると云ふ

○上陸の淸兵

今度淸國の艦隊が護送し來りて鴨綠江岸に上陸せしめたる淸國の援軍は其數未だ詳かならざるも多分五千前後なるべく之を率ゆる大將は即ち

吳大澂

なり渤海灣外に出づるのみを深く恐れ居たる淸國の艦隊が止むを得ず灣外に出でたるの情態より察すれば平壤の淸軍が本國に援助を請ふの如何に切なりし歟又李鴻章は此援軍を急送するの必要を如何に深く感ぜし歟を想像するに餘りあり淸國の爲めには幸に援軍目的の地に上陸を遂げは遂げたるも護送の艦隊は殆んど破碎されて淸國の海軍滅亡したる今日は鴨綠江岸と直隸諸港との海面には交通の路絕えて兵器輜重の運搬は忽ち杜絕せり其遠征の援軍は素より充分の兵糧彈藥を用意したりとも思はれず目下淸國には運送船極めて乏しければなり左れば今後は兵器糧食總て陸路の運送に依るの外なしと雖も陸路の運搬は極めて困難なればこそ大危險を侵して海路兵を送りたる事ならんなれば吳大澂の引率する援軍は不日にして兵糧に窮するならん然のみならず本國に大敗したる淸兵も不日鴨綠江岸に落延びて茲に群集す可ければ淸兵の總員非常の數に上り此附近地方に在る食物は數日の內に喰ひ盡さん鴨綠江岸に在る淸兵は戰はずして潰散すべき窮狀に陷りたるものなりと云ふ

○倫敦よりの問合せ

東洋諸國に居る外國人中には海洋嶋附近の海戰に日本艦隊大勝利を得たるの重大なる事實を知らざるものもあれど流石に世界第一の都會として知られたる英京倫敦には此勝報疾くに到達したるものと見え一昨日既に東京、橫濱の居留人に對し

日本大勝利の由詳細を電報せよ

との電報にて問合せ來るもの一二に止まらず殊に平壤略取の勝報英京に達して倫敦の諸新聞紙は忽ち日本を東洋の一强國(a considerable power)と評せり今度海戰の大勝報倫敦に達せば東洋に於ける一大國(a great power)なりとの評は必然なるべしと或る外國人の物語り

○某國公使館への電報

一昨日上海より某國公使館に達したる電報左の如し

淸艦四艘沈沒、七艘燒燼結局十八艘の中十一艘迄擊破せられたり

右十八艘は水雷艇をも加算したるものならん歟

○九十九十五萬弗

今年の春、北米合衆國[illegible]卿フォースター氏が支那を經て我國に來りし折の談話に氏は李鴻章に面會して懇親なる待遇を受けしが或時山の談話の途次、鴻章は氏に問ふて云ふやう卿も是まで如何なる職を勤め給ひしやとフォースター氏答へて云く曾て合衆國公使として墨西哥に又西班牙に駐在せしことあり又合衆國大統領[illegible]わりしが國務卿[illegible]を歷て今は[illegible]